

最後の甲魂祭を終えて

「革命～夢を広げ、絆を深め合おう～」のテーマの下、3年生にとって最後の文化祭となる甲魂祭が行われました。昨年までとは変わって、ステージ発表が10月12日、13日の2日間となり、生徒会や委員会などそれぞれが自分の持ち場で準備を重ねて本番を迎えました。開閉祭式や生徒会企画で大いに文化祭を盛り上げた全校生徒会、総合発表では修学旅行での学びを、工夫しながら明るく楽しく発表した学年生徒会、その他にも有志発表の進行や会場設営、校内の装飾など、各委員会が力を合わせて作り上げた文化祭は、生徒にとって良い思い出となったはずです。



令和6年度 合唱コンクール



中でも学年主任として、そして音楽科担当として忘れられないものとなったのが合唱コンクールです。たくさんの感動がありました。中でも指揮者の毎日の努力の積み重ねが素晴らしいものでした。1組平井惟統さん、2組鎌田来夢さん、3組相馬尚弥さん、4組大黒谷優聖さん達各学級の指揮者は、2週間ほぼ毎日音楽室に残って、指揮の練習と次の日の合唱練習に向けた計画を立てていました。「もっと良いものにしたい。」という思いが伝わる毎日でした。

徐々に伴奏者も合流し始めました。1組伊藤千代さん、2組岩間さくらさん、3組田中歩さん、4組湯元まおさん達伴奏者は、夏休み前から伴奏の練習に取り組んでいました。さらに指揮者と一緒に練習に参加しながら、「もっとこうすれば良いのではないかな。明日はこれを練習しよう。」と議論を重ねる毎日が続いていました。時々仕事の合間に音楽室に顔を出し、一緒に歌ってくれる生徒もいて、学級を越えてみんなで学年全体の合唱を向上させていることを感じました。

当日の合唱は本当に素晴らしいものでした。ある審査員の先生が「順位なんてつけたくない。それほどみんな素晴らしかった。」と審査用紙に記入していました。本当にその通りです。これまでの過程が、生徒を大きく成長させたはずです。帰りに「教室でもう1回みんなで歌いました。」と涙目で教えてくれた4組女子。目を潤ませて「先生、あと何が足りなかったんですか。」と聞いてきた3組女子。教室で涙が止まらず帰れない男子たち。「こんな涙を流せるなんて、本当に良い経験をしたんだなあ。」ととても嬉しく思いました。

中学校生活のほとんどの学校行事を終え、向かうところは進路のみとなります。先週から私立高校の学校説明会が始まりました。また、進路希望調査も行い、11月中旬には第1回志望状況調査の結果も発表になります。さまざまな現実から、進路について考えることが苦しくなる時もあるかもしれませんが、でも義務教育を終え、自分の道を選ぶ第一歩です。自分の歩む道を決めるのは自分しかいません。しっかりと向き合っていけるよう、学校と保護者と一体となってサポートしていきたいと思います。

11月1日には進路説明会が行われます。9月に説明を受けてきた内容をしっかりと保護者の皆様にもお伝えし、スムーズに進路の手続きを進められるようにしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

